

接続語 レベル1

日 前
月 名

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

今日は晴れると思っていた。(1) **オ** 雨が降ってしまった。残念ながら、私は傘を持っていない。(2) **イ** 天気予報で今日は晴れると言っていたからだ。(3) **エ** 風も激しく吹いてきた。(4) **ウ** 私はお店の中でしばらく待つことにした。(5) **ア** 雨宿りをすることにしたというわけだ。

ア 要するに イ なぜなら ウ そこで エ しかも オ ところが

- (1) オ (予想と逆のこと)
- (2) イ (理由の説明)
- (3) エ (さらに重要な内容を付け加える)
- (4) ウ (期待された通りの行動)
- (5) ア (まとめて言う)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～コから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

私は日本に生まれ育った。(6) **コ** 、私はいつも何気なく日本語を使っている。
 (7) **カ** 、世界を見渡すとこれは珍しいことかもしれない。(8) **ク** 、アメリカやカナダでは英語を話す人が多いし、世界中には、ドイツ語、フランス語、イタリア語を話す地域もある。(9) **ケ** 、一つの国の中で多くの言語が使われている国、(10) **キ** 、多言語国家も多く存在するのである。

カ だが キ すなわち ク 例えば ケ また コ だから

- (6) コ (原因から結果)
- (7) カ (逆の内容)
- (8) ク (例をあげる)
- (9) ケ (異なる例を対等に並べる)
- (10) キ (言い換える)



接続語 レベル2

日 前
月 名

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

世界には様々な文化があります。食についての習慣も様々です。(1) **ウ**、イスラム教の人たちは豚肉を食べません。(2) **イ**、ベトナムには、ゲンゴロウやタガメなど、虫を食べる習慣があります。それらの食習慣は、彼らの中では、一つの価値観として共有されています。(3) **オ**、当たり前のものであります。(4) **エ**、今の時代は交通網やメディアが発達して、様々な国や地域の人たちが関わりあうことが増えています。(5) **ア**、お互いの文化を尊重しあうことが重要なのです。

- ア だからこそ イ 一方 ウ 例えば エ ところで オ すなわち
- (1) **ウ** (例をあげる) (2) **イ** (別の文化の例) (3) **オ** (言い換える)
- (4) **エ** (話題を変える) (5) **ア** (原因から結果)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～クから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

人は一つのやり方や考え方に慣れてしまうと、それが本当に正しいのかどうか、考えることをしなくなります。(6) **キ**、それでは進歩はありませんし、(7) **コ**、何の発見も生まれません。(8) **カ**、たまにはいったん全てを忘れて最初に戻ってみることが必要なのです。(9) **ケ**、戻ること、先に進むことができるというわけです。(10) **ク**、ウソのようなお話ですが、本当のことです。

- カ だから キ でも ク まるで ケ つまり コ また
- (6) **キ** (否定へ向かう) (7) **コ** (同じような内容を並べる)
- (9) **ケ** (まとめて言う) (10) **ク** (～のような、とセットの表現)
- (8) **カ** (原因から結果)



接続語 レベル3

名前 _____ 日 前 _____

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

昔の日本人は家族や村などの共同体から望まれるような生き方をしなければならなかった。(1) **ウ**、日本文学では、しばしば共同体と個人の間に苦悩する主人公が登場し、また、読者の共感を誘った。(2) **オ**、現代に生きる我々は、自分で自分の生き方を決めなければならぬ時代を生きている。これは一見気楽に見えるようで、(3) **イ** 不安なものである。(4) **エ** 自由であることへの不安である。(5) **ア**、情報化社会においては、どう生きるべきかの選択肢はますます広がっていくばかりである。現代人の生きづらさの原因はそこにもあるのだ。

ア その上 イ むしろ ウ だからこそ エ いわば オ ところが

- (1) **ウ** (原因から結果) (2) **オ** (対立する内容が続く) (3) **イ** (どちらかという)
 (4) **エ** (言い換える) (5) **ア** (さらに加える)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～ケから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

地球上には様々な生物が生きています。(6) **ク**、トラやライオン、キリンやゾウ、米や麦、マグロやカブトムシや、バクテリアなど、挙げていくと切りがありません。これらの生物たちは、ただ一つの種だけで生きていくことは困難です。(7) **カ**、生物はお互いに関係しあっていくことで自身の生命を保っているからです。(8) **キ**、地球上で多くの生命が関係しあって生きていることを「生物多様性」と言います。(9) **コ**、人間はこの「生物多様性」の中に含まれるのでしょうか。もちろん人間も生物の一つです。(10) **ケ** 人間も他の生物と関わりあうことなしに生きていくことはできません。だからこそ、人間も、他の多くの生命と共に、この地球を分けあいながら生きている存在であることを忘れてはいけません。

- カ なぜなら キ このように ク 例えば ケ したがって コ ところで
 (6) **ク** (例をあげる) (7) **カ** (理由の説明) (8) **キ** (それまでの内容をまとめて言う)
 (9) **コ** (話題を変える) (10) **ケ** (原因から結果)



接続語 レベル4

日 前
月 名

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

人間はそれぞれ違った物の考え方や感性を持っています。言い換えれば、ひとりひとりに個性があります。その違いをしっかりと見ることが大事です。(1) **ウ**、人は他人を先入観で判断してしまいがちです。(2) **エ**「あいつは悪いやつらしい」などといううわさを聞いて、それを鵜呑みにして、その人の本当の個性を見ようとしてもしない。そのようなことになりがちなのです。(3) **ア**、世の中の情報に、目や耳を閉ざして生きることが難しいことです。つついといううわさに影響されてしまう気持ちもわかります。でも、一番大事なことは、自分の目で見て、自分の頭で考えることです。自分の考え方や感性を信じられない人が、(4) **イ**相手の個性や感性をしっかりと見ることができるといいでしょう。(5) **オ**、自分の個性を信じるのが、相手の個性を知ることへの第一歩なのです。

ア なるほど イ どうして ウ でも エ たとえば オ 要するに

- (1) **ウ** (逆の内容) (2) **エ** (例をあげる) (3) **ア** (よくある意見をいったん認める)
(4) **イ** (疑問を投げかける) (5) **オ** (本文全体のまとめ)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次の力～コから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

人は独りで生きるものではありません。(6) **カ**、それは独りになったら生きられないというわけではありません。仮に、ある人が無人島に流れついたとしても、即座に死んでしまうわけではありません。(7) **ケ**、独りで生きるわけではないというのはどういう意味かといえば、人は他者との関係性の中で自分を作るといったことなのです。(8) **キ**、他人があつての自分ということです。あなたはこれまで周囲の人に育てられる中で、自分らしさを形成して来ました。(9) **コ**、今現在、あなたの個性を認めてくれるのも、周囲の人たちです。あなたの人生は、あなただけのものではありません。同じように、あなたの命もあなただけのものではないのです。だから、自分を愛するようにして、周囲の人



たちを愛してください。

(10)

ク

、そこにいるのはあなた自身の分身なのですから。

カ しかし キ すなわち ク なぜなら ケ それでは コ また

(6) カ (よくある誤解の否定)

(7) ケ (次の展開へ)

(8) キ (言い換える)

(9) コ (同じような内容を並べる)

(10) ク (理由の説明)

接続語 レベル5

日 前
月 名

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

少数意見は尊重するべきである。(1) **オ**、人は多数派の意見に対して、ほとんど反対意見を言わない。(2) **ウ** 反対をすれば自分が嫌われることを知っているからだ。そして、多数派の意見ばかりが尊重され、人々がそれに反対をしなければ、ますます社会において多数派の意見ばかりが増えていくことになる。(3) **エ** 多数派の連鎖的増大である。一方で、少数派の意見はそれに伴って小さくなっていくことになる。(4) **ア** 新聞やテレビのニュースを見る際には、隠れた少数派の存在を意識することを、(5) **イ** 忘れてはならないのである。

ア だから イ 決して ウ なぜなら エ いわば オ だが

- (1) オ (逆の内容) (2) ウ (理由の説明) (3) エ (言い換える)
(4) ア (原因から結果) (5) イ (くない、とセットの表現)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～クから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

私たちがとりまく環境が変化すると、言葉も変化します。(6) **ク**、皆さんは「むかつく」という言葉の意味を知っていますか。この言葉はもともと胃など身体の不快感を示す言葉でした。(7) **ク**、現在では「怒り」など精神的不快感を表現するために使われることが多くなりました。この用法の変化は、一九八〇年代に起こったと言われます。受験戦争や管理教育によるストレスを全身で感じていた当時の小中学生が、精神的不快感をこのような言葉で言い表すようになったのです。(8) **ケ**、その用法が広く一般的にも使われるようになりました。このように環境の変化によって、言葉の指し示す意味が拡大する事例もあれば、(9) **キ** 縮小する場合があります。また時には全く新しい言葉が作られることもあります。(10) **カ**、環境変化と言葉の変化に強い関係があることは間違いないありません。





カ ともかく

キ

逆さかに

ク でも

ケ そして

コ たとえば

(6) コ (例をあげる)

(7) ク (違う意味に変わった)

(8) ケ (続いて起こったこと)

(9) キ (反対の内容)

(10) カ (あれこれある内容をまとめる)

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

(1) **イ**、世間では好き嫌いはよくないことだされている。とはいえ、人間には心があり、心には感情がある。(2) **ウ** 好き嫌いの気持ちがあるのは当然のことだ。松や桜や、梅や竹など様々なものがあるから自然は面白いのと同じく、人間にも好き嫌いなどの感情の違いがあるからこそ、(3) **エ** 面白いのだ。(4) **ア**、好き嫌いの感情にこだわってはいけない。自分の好き嫌いを頑固に押し通せば、それはわがままである。(5) **オ**、自分が嫌いなあの人を、他の人も嫌うべきだ、というような考えは、わがまま以外の何ものでもない。その人は、自分にとって嫌いな人であっても、他の人にとっては大事な人かもしれない。松を愛する人、桜や梅や竹を愛する人、いろいろな人がいるからこの世は面白いのである。

ア だが イ なるほど ウ だから エ むしろ オ 例えば

- (1) イ (よくある意見をいったん認める) (2) ウ (原因から結果)
 (3) エ (どちらかというところ) (4) ア (予想と違う方向) (5) オ (例をあげる)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～ケから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

自分の力を信じられない時に人は怖じ気づくものです。目の前にいる相手が自分よりも勝っていると思うと、怖くて仕方が無い感情にとらわれてしまうのです。この時、「いや、自分は相手よりも勝っている。(6) **ク**、何も恐れることはない。」と自分に言い聞かせるという対処方法があります。でも、この方法は、自分に嘘をつき、相手の本当の姿を見ようとしないうけですから、(7) **コ** うまくいかないでしょう。(8) **カ** うまくいったとしても、大変に気疲れしてしまいます。これに対して、「相手には力がある。(9) **ケ** 自分よりも勝った力である。」と認めた上で、(10) **キ** 相手はその力を、自分を攻撃するためには使わないだろう」と信じて、自分も相手に対して自分の最大限の



誠意を尽くすという方法もあります。こちらの方がはるかに誠実な対処法です。もしあなたが、誰かに対して怖じ気を感じた時には思い出してみてください。

カ たとえ キ しかし ク したがって ケ しかも コ きつと

- (6) ク (原因から結果) (7) コ (〜でしよう、とセツト)
- (8) カ (〜としても、とセツト) (9) ケ (重要な内容を加える)
- (10) キ (予想と違う方向)

接続語 レベル7

日 前
月 名

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

昔から日本人はウナギを食べていました。奈良時代の「万葉集」には「石麻呂にわれ物申す夏瘦せに良しといふ物ぞ鰻とり食せ」という大伴家持の歌が見られます。(1)ア、江戸時代には平賀源内が、馴染みの鰻屋をはやらせようと宣伝用に看板を出したのがきっかけとなり、土用の丑の日にウナギを食べる習慣が始まりました。ウナギは日本人にとって馴染みの魚です。(2)エ、ウナギは深海で産卵し、淡水域に入って成長する魚なのですが、その具体的な発生については、世界中で長い間謎とされて来ましたが、(3)ウ、どんなに探しても、ウナギの稚魚も卵を持った親も見つからなかったからです。(4)オ、そのウナギの発生の謎を解明した人がいます。生物学者である塚本勝巳さんです。塚本さんは、ウナギの天然卵を北太平洋西マリアナ海溝付近の海域で採集することに成功し、ウナギの産卵地点を世界で初めて特定しました。(5)イ、ウナギの産卵の具体的な流れなどが明らかになっていったのです。

- ア また イ その結果 ウ というのも エ ところで オ ところが
- (1)ア (同じような内容を並べる) (2)エ (話題が変わる) (3)ウ (理由の説明)
- (4)オ (これまでと逆の方向) (5)イ (それによって起こったことが続く)

■ 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～コから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

人にはそれぞれ才能がある。(6)ケ、その才能を開花させ、成長していくためには他の人による手助けが必要である。(7)コ 各自がその才能を発揮するためには、支援や助力が不可欠なのである。(8)ク この支援や助力は公正さをその目標とするべきである。(9)キ、同じく才能ある二人の少年がいたとして、一方は優秀な教師による指導を受け、もう一方は何の教育も受けられないとしたら、これは公正ではない。各自のおかれた状況が差別につながってはならないのだ。(10)カ、このような公正を欠いた状



況は早急に改善かいぜんされるべきなのである。

- カ したがって キ たとえば ク さらに ケ だが コ すなわち
- (6) ケ (予想と違ちがう方向) (7) コ (言い換かえる) (8) ク (重要な内容を加える)
- (9) キ (例をあげる) (10) カ (理由を言いってから、主張しゅちやうをする)

接続語 レベル8

日 前
月 名

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

あなたがお寿司屋さんに入ったとします。たくさんネタがありますよね。でもその中には、同じ種類の魚を別の名前で呼んでいるものが含まれています。

(1) **イ**、マグロも、トロも、鉄火も、魚の種類としては同じ「**鯖**Ⅱまぐろ」です。

(2) **ア**、それぞれがまるで別の食べ物であるかのように扱われています。

(3) **オ** 日本人は、ひとつの魚からできるお寿司に、別々の名前をつけるのでしょうか。私はこう考えます。日本人は昔から魚をたくさん食べていて、魚にこだわりがあるからではないかと。部位や調理法によって味にも細かい違いがあるということを知っている。

(4) **エ**、別々の名前を付けるのです。そう考えてみると、たくさん名前、たくさん言葉を知っている人ほど、様々な物事を詳細にわたって理解していることになります。

(5) **ウ** 言葉の豊かな人は、心が豊かな人なのです。

ア それなのに イ 例えば ウ つまり エ だからこそ オ どうして

- (1) **イ** (例をあげる) (2) **ア** (逆の内容) (3) **オ** (疑問の投げかけ)
(4) **エ** (原因から結果) (5) **ウ** (まとめて言う)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～クから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

「イブの仮説」という考え方があります。現在の人類の母系の祖先をたどっていくと、約十六万年前にアフリカにいた一人の女性にたどりつくとする学説です。これは母親から子供に受け継がれるミトコンドリアDNAの塩基配列を解析した結果をもとに提唱された説です。

(6) **カ**、このアフリカにいた一人の女性を「ミトコンドリア・イブ」と呼ぶこともあります。大変興味深い説ですね。

(7) **ク**、注意しなければいけないことが二つあります。

(8) **キ**、現在の人類は「ミトコンドリア・イブ」の遺伝子を受け継いではいませんが、人類がその女性だけから始まったわけではありません。

(9) **ク** 「ミトコ



ンドリア・イブ」の生きていた時代には、他にも多くの女性が存在し、その遺伝子は、途中で男系子孫を介しながら、現在まで受け継がれているからです。(10) ケ、「ミトコンドリア・イブ」から、さらに祖先をたどることができることも、忘れてはなりません。その母系祖先たちも現在の人類に共通する女性祖先なのです。「ミトコンドリア・イブ」はあくまでも、現在の人類に最も近い世代の祖先であるだけです。唯一の祖というわけではないのです。

カ ですから キ まず ク なぜなら ケ 次に コ しかしながら

(6) カ (原因から結果) (7) コ (これまでと違う方向) (8) キ (注意点その1)

(9) ク (理由の説明) (10) ケ (注意点その2)

接続語 レベル9

日 前
月 名

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

お金は貯めるだけでは意味がありません。(1) **ウ** お金そのものに価値があるわけではないからです。確かに、世の中には、お金自体に価値があると思っている人がたくさんいます。(2) **エ** お金は様々な価値を同じ基準で評価して交換できるように作られた道具に過ぎないのです。(3) **イ**、ある学生さんが一日アルバイトをして働いて得た一万円で、同じ金額の服を買ったとしたら、「一日の労働＝一万円＝服」ということになります。服と労働は本来別のもですが、お金という基準を間に入れることで、交換できるようなるわけです。お金は交換という行為をする際の道具です。(4) **ア**、交換しなければ全然意味がないのです。交換してはじめて価値を産むのです。先ほどの例で言うなら、学生さんが、一万円を眺めてニヤニヤしていても(5) **オ** 意味がないということです。

ア だからこそ イ たとえば ウ なぜなら エ でも オ まったく
 (1) **ウ** (理由の説明) (2) **エ** (よくある考えと違う見方) (1) **イ** (例をあげる)
 (4) **ア** (原因から結果) (5) **オ** (～ない、とセット)
 ■ 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～ケから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

ソクラテスは古代ギリシアの哲学者です。ソクラテスは、知は(6) **コ** 徳であると説きました。わかりやすく言うと、知恵のある者こそが正しい行為をするということです。(7) **カ** 人は悪いことをするのでしょうか。それは何が善いことであるかを知らないからです。(8) **キ**、何が善いことであるかを知れば、悪いことはしなくなります。さらにソクラテスは知の追求こそ幸福につながることも説きました。(9) **ケ**、ソクラテスの言う知は、「何でも知っている」ということではありません。(10) **ク**「自分にとってわからないものがある」ということを知っていることが大事だとソクラテスは説いたので、これを「無知の知」と言います。

- カ なぜ キ ですから ク むしろ ケ ただし
 (6) **コ** (イコールの関係) (7) **カ** (疑問の投げかけ)
 (9) **ケ** (付け足し) (10) **ク** (どちらかという)
 (8) **キ** (原因から結果)



1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

地産地消とは、地域で生産されたものを、その地域で消費することです。**(1) オ**、それによって、農業者と消費者の結び付きを強くしていこうという取り組みでもあります。最近、地産地消の大切さがよく言われています。では、**(2) エ**、地産地消の大切さが強調されているのでしょうか。それは日本の食料自給率に問題があるからです。昭和四十年代、日本の食料自給率は七十三%でした。**(3) ウ** 現在では、それがたったの三十九%です。その原因のひとつは日本人の食生活の洋風化です。日本人は、日本でたくさん取れるお米よりも、肉や乳製品、卵などの畜産物や油脂類をたくさん食べるようになり、**(4) ア**、日本の農産物の生産量が下がったのです。**(5) イ**、日本人が日本で取れるものをもっと多く食べるようになれば、国産の食べものの生産量を上げられることになります。このような背景があるからこそ、地産地消が大事なのです。

- ア その結果 イ 逆に言えば ウ でも エ なぜ オ さらに
- (1) オ** (大事な内容を加える) **(2) エ** (疑問の投げかけ) **(3) ウ** (逆の方向)
- (4) ア** (それによって起こった内容) **(5) イ** (同じ事実を逆方向から言う)

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～コから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

日本の伝統的な芸の道は、師匠から弟子への型の伝授を基本としてきました。何度も型を繰り返すことで、弟子が自ら悟って上達するのが「稽古」です。**(6) キ**、型の伝授には段階があります。高度の伝授は秘伝といって密かに特定の者だけに伝えられます。そして、もっとも高い芸の境地は、師匠の心から弟子の心へ「以心伝心」によって伝えられます。「以心伝心」とは、心をもって心に伝えること。**(7) カ** 無言のうちに心が通じ合うことです。ところで、この「以心伝心」の文化は、芸の道だけにとどまるものではありません。**(8) コ**、町の中や、家庭や学校の中、職場の中など様々な場所に「以心伝心」



の文化はあふれています。日本は伝統的に「以心伝心」を大切にして来た国なのです。
 (9) ケ、この文化を、世界の他の国々の人たちに理解してもらうのは難しいでしょう。
 (10) ク、現代に生きる皆さんには、しっかりと言葉でもって心を伝えるための、表現力と論理の力を身につけてほしいのです。

カ つまり キ また ク だからこそ ケ ですが コ 例えは

(6) キ (同じような内容をつけ加える) (7) カ (まとめて言う) (8) コ (例をあげる)

(9) ケ (期待と違う方向) (10) ク (理由を言うから主張をする)